

<宮崎地区（中学校）>

合理的配慮の提供についての現状と課題

宮崎地区では、合理的配慮の提供に関する取組について、各中学校で実際に行っていることを出し合った。そのうち「合理的配慮の観点」の中から複数の学校に共通していたものについて、その現状と課題、課題に向けての取組等をまとめた。

I 合理的配慮の提供についての現状と課題、それらに向けての取組

1 学級での指導・支援に関すること

(1) 特別支援学級

項目	現状・課題	取組
不登校（傾向）	（自・情学級） ・ 不登校（傾向）の生徒が多い。 ・ 授業に参加できない生徒がいる。	・ トークンエコノミー（ご褒美シール）で意欲を高めた。 ・ 授業に参加できない生徒が出た場合、時間割を調整し対応している。
交流学习への参加	・ 交流学級に行けない生徒がいる。	・ 待ちの姿勢で対応し、交流に行く気持ちになった。
進路	・ 進路の決定が難しい。	・ 不登校の生徒の進学が難しいが、私立学校の情報を得て考えている。
ネット、ゲーム	・ オンラインゲームを長時間している。 ・ 「学校に行くのならばゲームができる。」と親から言われていて登校しているが、学習への意欲がもてない。	・ 学校でゲームやネットの歯止めを効かせることができない。ゲーム・ネットへの依存傾向が見られる生徒への対応をどのように進めていけばよいのかが分からない。
担任1人で指導することについて	・ 授業妨害（暴言、暴力）をする生徒がおり、授業が成り立たない。 ・ 学年も実態もばらばらで、指導・支援が行き届かない。	・ サポートの先生を教育課程上の時間にしっかり位置付けてもらえるように管理職・教務主任に相談する。 ・ スクールサポーターのサポート協力を得る。

(2) 通常の学級

現状・課題	取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の学級に在籍する生徒の相談がある。特性の有無が分からない生徒へのアドバイスが難しい。【特支 Co】 ・ 在籍変更が必要な生徒がいるが、その対応が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育コーディネーターが、アセスメントシート等を活用しながら対応した。

2 アセスメントについて

現状・課題	取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮崎市のアセスメントシートでのチェックが難しい。 ・ アセスメントを取る生徒、取らない生徒の判断が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット上に様々な団体が出しているチェックシートがあるので、それを活用している。（例：LD学会のチェックリスト） ・ 名簿で生徒全員のアセスメントシートの項目をはりつけてチェックしている。 ・ アセスメントを取る生徒は、校内の特別支援委員会で決めている。年度途中でアセスメントをとる生徒については、担当者をコーディネーターが決め、関連する教諭に依頼している。

3 連携について

(1) 保護者との連携

<ul style="list-style-type: none">・ 保護者の子どもへの関心が低い。・ 保護者との連絡が取れない。・ 子どもへの関心が低い親やネグレクト等生活に問題がある家庭がある。 (児童養護施設に入所している生徒も。)	<ul style="list-style-type: none">・ 保護者とのかかわりを持ってもらえる放課後デイサービスの担当者や福祉からコンタクトを取ってもらう。・ 地域民生委員、第三者機関からアプローチしてもらう。・ 児童相談所に相談する。
--	--

(2) 関係機関との連携

<ul style="list-style-type: none">・ 外部機関との調整に時間がかかることがある。時間がかかっているうちに保護者の気持ちの変化することがある。・ 医療機関との連携が必要な事例がある。	<ul style="list-style-type: none">・ 保護者と関りをもった後に、スクールソーシャルワーカー (SSW) や福祉に繋いでいる。・ 保育所等訪問支援事業の活用をしている。
--	---

II まとめ

1 成果と課題

- 自・情学級では、不登校（傾向）や教室に入ることができない生徒が多くおり、各学校で時間割を調整したり複数の教員で対応したりする等、工夫をしながら対応することができている。
- 特別支援学級担任への支援として、時間割を調整する等、スクールサポーターの協力を得られるようにしている。
- 使いやすいアセスメントシートを入手しチェックをし、アセスメントを取る担当や対象生徒を校内の委員会で具体的に決定して行っている。
- 保育所等訪問支援事業の活用など、外部機関の支援やアドバイスを受けることができた。
- 不登校の生徒や授業に参加できない生徒には、様々な工夫を重ねて対応しているが、限られた人数での対応は難しくなってきた。
- 私立校（向洋学園、クラーク高等専修学校等）に進学する特別支援学級（自・情）の生徒が多い。だが、それらの学校の生徒数も年々増えてきているとの情報もある。
- ネットやオンラインゲーム、タブレット等を長時間見ており、登校することや学校での学習への意欲が出ない生徒が増えてきている。
- 特別支援学級は、在籍生徒が複数学年にわたっており生徒の学力の差が大きい場合もあり、担任1人で指導・支援をすることが困難なことも多い。

2 今後の取組について

不登校（傾向）や授業に参加できない生徒が多くいることや、様々な実態の生徒を学担が1人で指導していること、ネットやオンラインゲームの長時間利用、その対応に苦慮している学校が多いことが分かった。

上記のような課題を改善するために、以下のような事柄の必要性が明らかになった。

<ul style="list-style-type: none">・ 支援が必要な生徒に対して組織的な運営体制を整える方法を図っていくこと。・ ネットやゲームに関して周りの大人がその中身について知り、家庭の協力を得ること。・ 小学校段階からの関係機関との連携（医療、福祉、学校）を図ること。・ 進学先として考えられる高校等との密な情報交換。
--

今回、改めて分かった必要性のある事柄を各学校で、また学校間で情報交換しながら取り組んでいくことが更なる合理的配慮の充実に繋がっていくと思われる。